

第一四 對八路軍戰鬪於テ我警備隊(今次作戦間警備ヲ怠ル坂井

大隊)ノ得タル参考資料

一 南関鎮ニ於テ交戦セル敵ハ第一二九師第三五旅第七六九團  
獨立第二團及獨立第二團ニシテ南関鎮警備隊ノトテカ、數  
米前迄迎接シ來リ「馬鹿野郎」ト呼ビ手榴彈ヲ投擲シ其ノ位  
置ヲ動カザリシガ如キ勇敢ナル敵兵多敷ヲ見シリ  
(坂)

二 南関鎮警備隊ニ於テ風向ヲ利用シ「あか筒」ヲ使用セシ其ノ  
風下ニ在ル敵部隊ハ終日迎接セザリシ事實ヨリ見テ瓦斯ニ對ス  
ル装備訓練ハ充分ナラザルモト察セラル  
(坂)

三 夏店鎮地區ニ於テ今富隊ノ交戦セル敵ハ第一二九師ニ屬スル新  
編第三八團(青年抗敵決死隊)ニシテ一ヶ排ニ「チッコ」輕機若久  
自動小銃一連ニ重機一小銃ハ各人一、手榴彈ハ各人二、三

個ヲ携フ帶シアリ彈藥ハ比較的豊富ナリシモ捕虜ノ言ニ夜ト編入  
後間モナキ兵員及年ツ者多數ヲ含ミアリト云フ  
(坂)

四 我ガ鐵道道路通信線ヲ破壞スルニ當リテハ穩密ト強行トノ二方  
法ヲ採用シアリ

即チ兵力大ナルトキハ破壞點ノ兩側ニアル我ガ警備隊ヲ攻撃シ  
其ノ出撃ヲ阻止シタル後豫メ連行セル多數ノ苦力ヲ使用シ破  
壞ヲ強行ス

穩密破壞ハ夜間暗黒ノ夜ヲ利用シ我ガ警備隊ヨリ遠ク離  
隔セル箇所ヲ選定ス

而シテ月明時ハ之ヲ避ケ暗黒ノ夜ヲ選定シ其ノ實施時刻ハ  
前半夜二十三時前後、後半夜一―二時頃及夜明ケ二時間位  
前、三時機最モ多シ  
(坂)

五 敵ノ夜間行動ハ迅速靜肅ニシテ引上時ノ如キ照明彈又ハ喇叭ノ吹奏等ニ依リ一齊ニ行フヲ常トス (坂)

六 敵ノ退却時戦法ハ數組ノ「エッコ」輕機自動小銃等ヲ有スル收容部隊ヲシテ交互ニ要點ヲ占領セシメ主カノ退却ヲ掩護スルヲ其ノ慣用戦法トス  
而シテ主カト常ニ四五百米ノ距離ヲ有シ其ノ距離ヲ保持スル爲メ我ガ猛攻撃ニ對シテモ容易ニ退カス (坂)

七 兵カノ偽虜ト我ニ目標ヲ捕捉セシメザル爲絶ズ移動シ射撃シ居リタルヲ隨前ニ於テ目撃セリ (坂)

八 敵言備ニ當ルベキ部隊特ニ小分駐隊ノ如キニ對シテハ努メテ重

火器（押收迫撃砲重機ノ如キ）ヲ配當スルコトノ緊要性ヲ痛感ス  
之小分駐隊ニ於テ兵力小ナルヲ以テ出撃人員ヲ出來得ル限リ  
多クカラムル爲ニハ残置スベキ火器ヲ必要トスルヲ以テナリ  
（攻）

九、警備ニ當ルベキ部隊ハ敵ノ潜行諸工作ニ對抗シ之ヲ撃破スル  
機関ヲ必要トス

近來共產軍ハ軍隊ヲ以テ直接工作ヲ避ケ政治的手段ニ依リ其  
執力圏ノ擴大ヲ圖ラントシツアリ故ニ警備隊ハ單ニ支那側ノ機関  
ヲ利用スルノミナラス自ラ敵ノ諸工作ニ對抗シ之ヲ撃破スル如キ機  
関ヲ持ツト必要ナリ特ニ謀報網宣傳謀略網方面ニ於テ然  
（攻）

一〇、我が部隊が笠原及青砥部隊ヨリ其ノ警備ヲ申受ケ極メテ痛

大なる地域ノ警備ヲ担任スルニ當リ各該警備隊ノ兵力ニ適應スル如ク急速ニ変更セシムルト共ニ諸工事ヲ一層増強セシメタリ  
今回有勢ヲ敵トシ交戦ニ際シ勇敢ニ戦闘シ得タル一因ナリ

(坂)

ニ特務兵ヲ多數有スル部隊等ニ於テハ動モスト大彈藥ノ乱射ニ  
陥リ威嚇ノ爲ニ盲射ヲ爲ス悪習アリ

(坂)

ニ常ニ兵器ヲ整備シ完全ナル兵器ヲ以テ戦闘シ得ル如ク點檢シ  
置クスト時要アリ

重擲彈筒ニ付一例ヲ述バ外鏢ノ緊定不充分ナリシ爲  
戦闘中外鏢外レ射撃不能ニ陥リタルモアリ幸ニ紛失スルコト  
ナク柄桿内ニアリタルヲ以テ直ニ結合シ射撃ヲ繼續スルヲ得タルモ  
好機ヲ逸シタルコトアリ

配當ノ押収兵器等ハ必ず試射シ機能ヲ點檢シ置クト必要  
ナリ  
(坂)

三、使用彈藥ハ豫メ點檢整備シ置クト肝要ナリ非常出勤ノ際  
申受彈藥ヲ點檢セズシテ携行セシ爲押彈子ニ附着ニ錯  
ノ爲故障出来好機ヲ逸シタルコト屢々アリキ  
殊ニ押収彈藥ニ於テ然リ  
(坂)

四、部落檢索等ヲナス場合苦力ヲ充分監視セザレバ附近民家  
ヨリ衣類食物等ヲ盜ミ出シ住民ヨリ怨ヲ受クルコトアリテ我ガ  
工作ヲ阻害スルコト甚シ最ニ監視スルヲ要ス  
(坂)